

小笠原諸島振興開発計画における 目標の設定状況と進捗状況

令和8年7月17日
東京都

1. 小笠原諸島振興開発計画(令和6年度～令和10年度)における目標人口及び成果目標

(1) 目標人口

人口は、将来的には約3,000人を想定し、令和10年度末では、人口動態における社会増減をプラスにするとともに、令和5年度末の人口より増加していることを目標とする。

(2) 成果目標

指標	目標 (令和10年度)	参考値	
農作物収穫量	120t	平成30年から令和4年度の平均実績	117.6t
農業生産額	1億3,720万円	平成30年から令和4年の平均実績	1億3,120万円
漁獲量	532t	平成30年から令和4年の平均実績	452t
漁獲金額	7億1,000万円	平成30年から令和4年の平均実績	6億8,600万円
年間入り込み客数※1	34,500人	令和4年度実績	25,812人
教育旅行者数	20件 1,200人	令和4年度実績	20件 410人
観光消費額(推計)	28億3,200万円	令和4年実績	19億700万円
リサイクル率※2	50%	令和3年度実績	31.4%
再生可能エネルギー 発電容量※3	325kW	令和4年度末実績	230kW

※1 年間入り込み客数は、①定期船おがさわら丸の乗船客のうち、島民を除く、観光や仕事・研究等での乗船者数、②定期船以外の観光客船(クルーズ船)の乗客数の合計

※2 年間のごみの総処理量と集団回収量の合計に対する総資源化量の割合

※3 公共施設における再生可能エネルギー発電容量

2. 各目標の達成状況

※各目標に対する実績について、直近の年度(令和7年度)の数値でないものは、()で表記する。

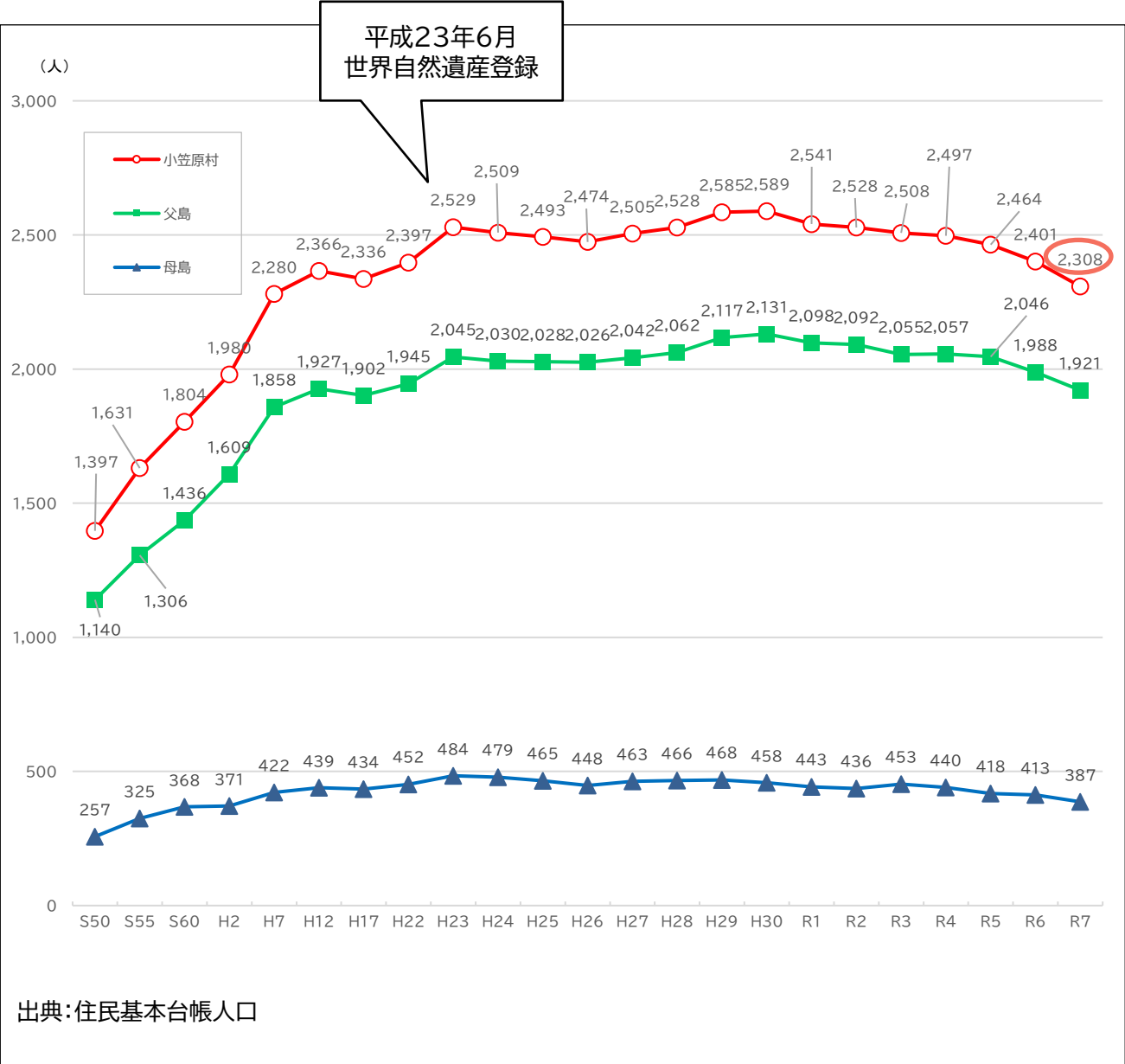
(1) 人口

令和7年度実績	目標 (令和10年度)	参考
2,308人	2,464人以上	令和5年度末の人口2,464人より増加していることを目標とする。

※ 外国人は含まない。

令和7年度末の小笠原村の住民基本台帳人口は、父島と母島で2,308人。その内訳は父島で1,921人、母島で387人となっている。

【小笠原村の人口の推移】



【人口の推移について】

- 日本復帰当初から平成7年度まで大幅に増加し、その後は中長期的に微増傾向であったが、平成30年度を境に減少傾向となっている。
- 出生率が全国平均より高く※、死亡率も低いため、自然増しているが、島内で治療できない疾病や生活の不安等から本土に転出するなど、社会減もある。
※ 令和6年出生率:10.0 (全国:5.7)
※ 令和6年死亡率: 7.6 (全国:13.3)
- 小笠原村の人口割合を全国と比較すると、年少人口と生産年齢人口の割合が高く、老年人口割合は低くなっており、高齢化は全国に比べ緩やかに進行している。

(参考)年齢3区分別人口割合 (単位:%)

区分	年少人口 (0歳～14歳)	生産年齢人口 (15歳～64歳)	老年人口 (65歳～)
小笠原村	13.69	69.20	17.11
全国	10.88	59.70	29.43

出典:住民基本台帳人口【R8.1.1現在】

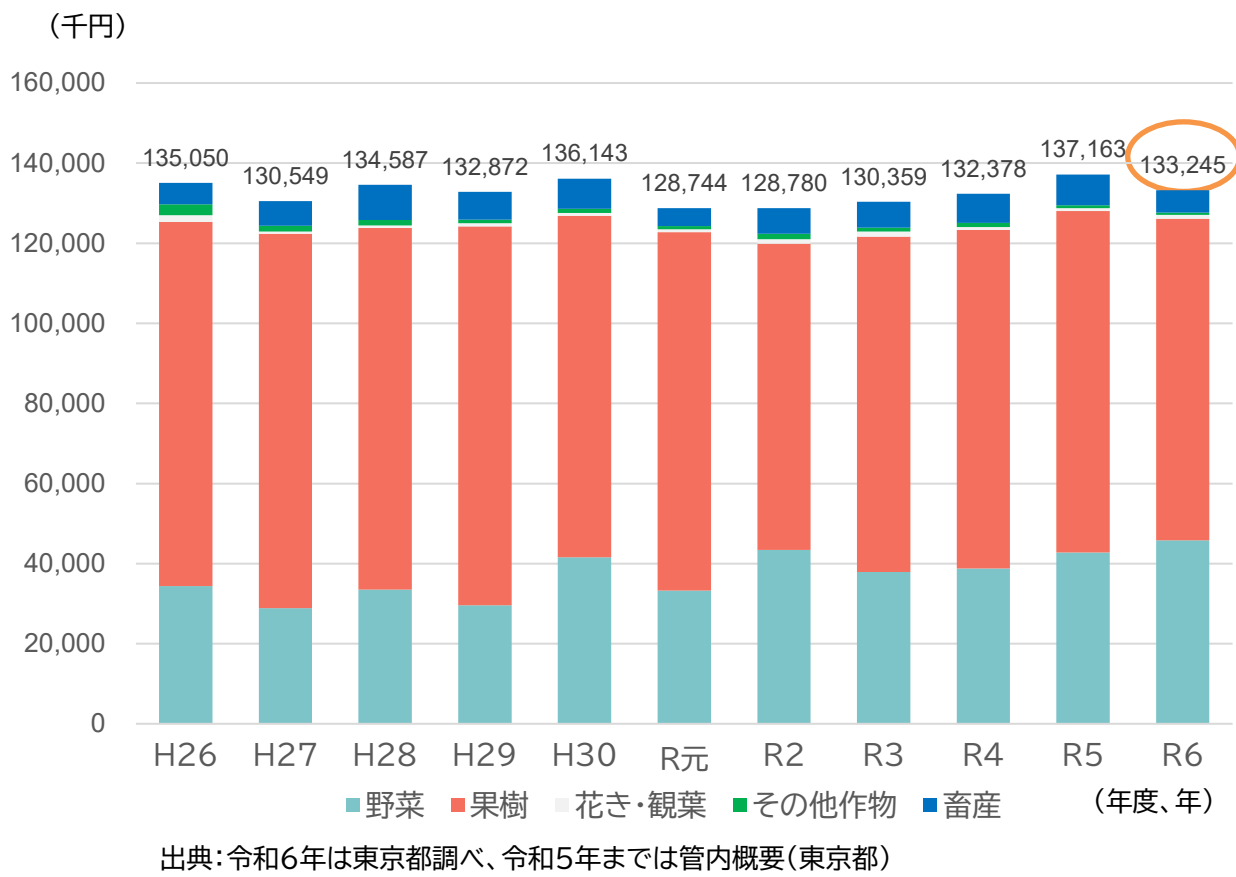
2. 各目標の達成状況

※各目標に対する実績について、直近の年度(令和7年度)の数値でないものは、()で表記する。

(2) 農作物収穫量・農業生産額

令和6年実績	目標 (令和10年度)	参考値(平成30年から令和4年の平均実績) ※農作物収穫量は年度、農業生産額は暦年
(122.1t) (1億 3,325万円)	120t 1億3,720万円	117.6t 1億3,120万円

【小笠原諸島における農産物の種類別生産額の推移】



【農作物収穫量・農業生産額の推移について】

- 生産量の上位はパッションフルーツ、トマト・ミニトマト、レモンの順となっている。
 - 生産額で見ても約43%をパッションフルーツが占め、次いでトマト・ミニトマト、レモンの順となっており、それら三品目の生産額で全体の約8割を占めている。
 - 令和6年実績は令和5年と比べ、レモンの生産額が増加したものの、前年が豊作であったパッションフルーツの生産額が大きく減少し、全体としては微減となった。
- 《令和7年度の主な取組状況》
- 農用地等の利用権設定等の促進(新規3件、更新3件、延べ38件)【村】
 - 農業用水の安定供給と渇水対策を計画的に進めるため、かんがい施設整備を実施【都】
 - 農業被害を抑制するため、アフリカマイマイの防除やノヤギの駆除を実施【都・村】
 - 新規就農者を含む生産者へ試験研究の成果を還元するとともに、技術指導や農業経営に関する研修、巡回指導、特産作物の実証展示を実施【都】
 - 意欲が高く就農間もない農業者に対して資金を交付(年間最大150万円)(経営開始資金等)【国・都・村】

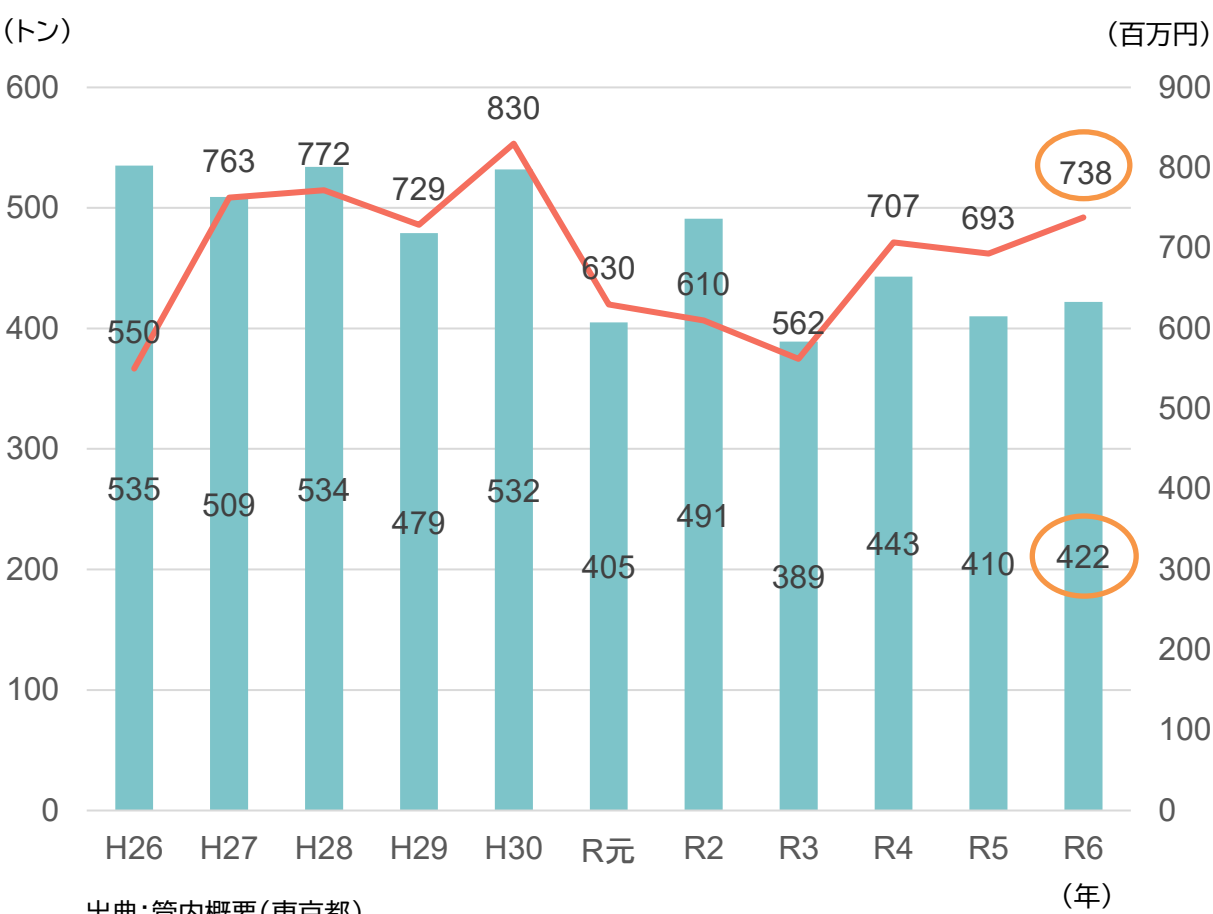
2. 各目標の達成状況

※各目標に対する実績について、直近の年度(令和7年度)の数値でないものは、()で表記する。

(3) 漁獲量・漁獲高

令和6年実績	目標 (令和10年度)	参考値(平成30年から令和4年の平均実績)
(422t) (7億3,800万円)	532t 7億1,000万円	452t 6億8,600万円

【小笠原諸島における漁獲量・漁獲高の推移】



【漁獲量・漁獲高の推移について】

- 漁獲量の約40%をカジキ類が占め、その他ハマダイ、マグロ類を含めると全体の約72%を占めている。
- 漁獲高ではカジキ類(約33%)、ハマダイ(約18%)、マグロ類(約10%)で全体の約62%を占め、その他にサンゴ(約25%)やイカ類(約6%)が上位を占めている。
- 令和6年実績は、カジキ類、ハマダイ、マグロ類及びイカ類が好調であった。漁獲量の見込めるカジキ類や底魚類を中心に、多様な漁業で経営の安定化を図っている。

《令和7年度の主な取組状況》

- 漁船が安全に停泊できる水域を早急に確保するため、二見漁港において突堤整備の工事を実施【都】
- 調査指導船「興洋・みやこ」による海況の把握や試験操業、無線局の維持等により、漁業生産性の向上や操業の安全を通して水産業を振興【都】

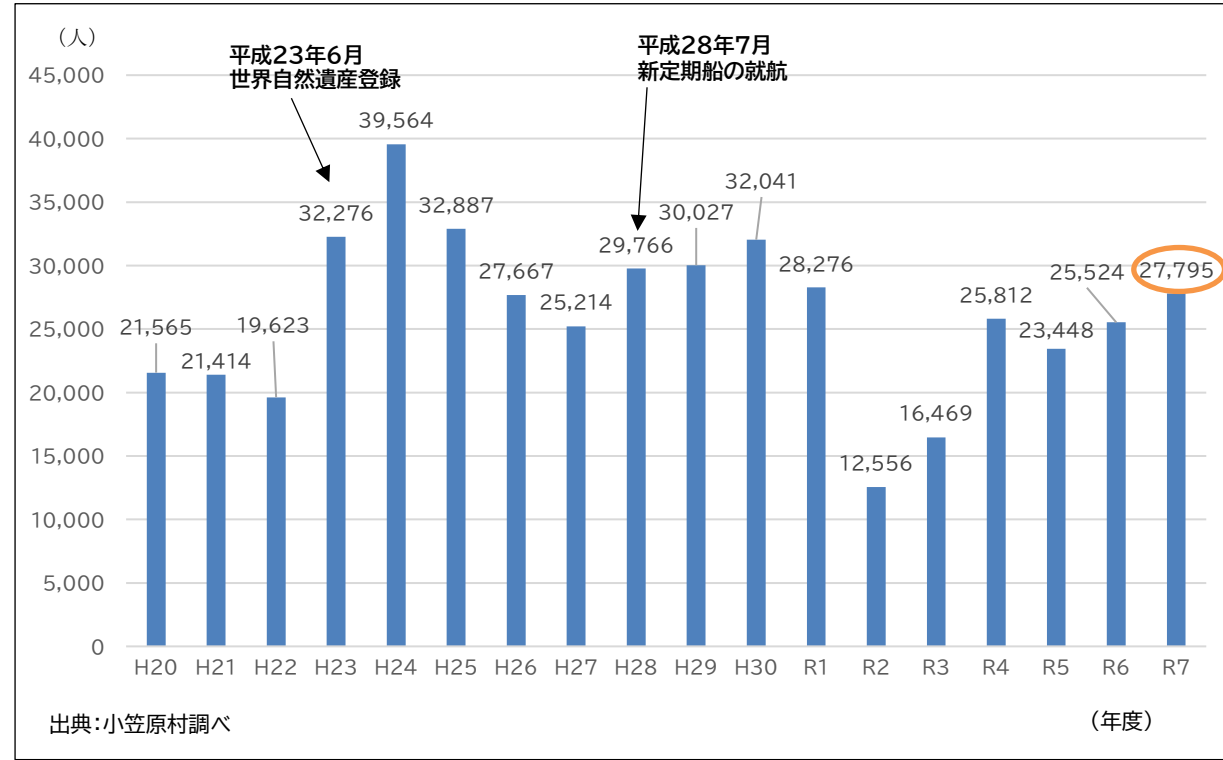
2. 各目標の達成状況

※各目標に対する実績について、直近の年度(令和7年度)の数値でないものは、()で表記する。

(4) 年間入り込み客数・観光消費額推計

令和7年度実績 ※観光消費額推計は暦年	目標 (令和10年度)	参考値(令和4年度実績) ※観光消費額推計は暦年
27,795人 (28億1,060万円)	34,500人 28億3,200万円	25,812人 19億700万円

【小笠原村への入り込み客数の推移】



区分	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
おがさわら丸	12,556	16,469	23,318	22,051	23,290	24,865
観光客船 (寄港回数)	0 (0)	0 (0)	2,494 (10)	1,397 (4)	2,234 (6)	2,930 (8)
合計	12,556	16,469	25,812	23,448	25,524	27,795

出典:小笠原村調べ

【入り込み客数・観光消費額推計の推移について】

- 2万人前後で推移していた小笠原村への入り込み客数は、平成23年6月の世界自然遺産登録により、平成24年度には約4万人まで増加した。
- その後、落ち着きを見せていた入り込み客数は、新「おがさわら丸」が就航した平成28年度以降、増加に転じて、平成29年度及び平成30年度には3万人を超えた。
- 令和2年度・令和3年度はコロナ禍の影響を受け、入り込み客数は大きく減少した。
- 令和4年度後半はコロナ禍の出口が見通せる状況となり、令和5年度以降は新型コロナウイルスが5類に移行したことで、観光客数が回復し、おがさわら丸による入り込み客数は増加傾向にある。
- 令和7年の観光消費額推計は28億1,060万円で、前年と比較して増となった。

《令和7年度の主な取組状況》

- 小笠原諸島への国内旅行者の継続的な誘致を図るため、企業及び教育旅行の実態調査、旅行会社へのヒアリング、旅行商品販売に向けた商談会等を実施し、分析結果を小笠原諸島の観光諸団体に共有【都】
- 本土での各種旅行関連イベント、教育旅行セミナー、旅行会社向けセミナー、個人客向けのイベント等観光PRを実施【村】
- 小笠原諸島の関係機関(東京都産業労働局観光部、小笠原村産業観光課、小笠原村観光協会、母島観光協会、小笠原ホエールウォッチング協会、小笠原村観光局、小笠原海運)により、月に一度会議を開催して、最新情報の共有、観光施策の連携、各種課題等の検討を実施【村】
- 観光客の満足度向上を図るため、定期航路利用の来島者にアンケートを実施し、分析結果を観光諸団体に提供【村】
- 小笠原ファンの情報発信力を活用することを目的としたアンバサダー制度を継続して運用【村】

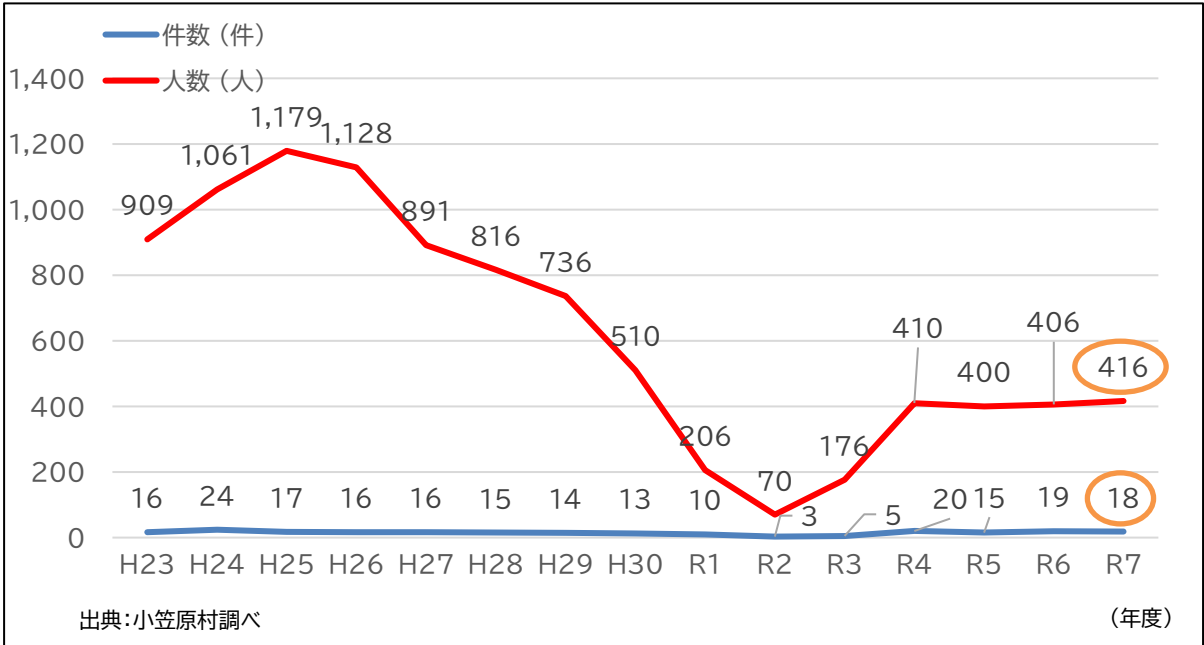
2. 各目標の達成状況

※各目標に対する実績について、直近の年度(令和7年度)の数値でないものは、()で表記する。

(5) 教育旅行者数

令和7年度実績	目標 (令和10年度)	参考値(令和4年度実績)
18件 416人	20件 1,200人	20件 410人

【小笠原村への教育旅行者数の推移】



【教育旅行者数の推移について】

- 教育旅行者数は、近年下降気味であるものの、継続的な誘致活動の成果もあり、件数は一定数を維持している。令和元年度における人数の実績が大きく減少したのは、100名以上の来島校を誘致できなかったことと、新型コロナウイルス感染症の影響により5校が来島されなかったことに因る。
- 令和3年度については、深刻なコロナ禍の中で、来島予定の学校が減っており、コロナ感染拡大前に比べ大幅に減少している。
- 令和4年度後半にはコロナ禍の出口が見通せる状況となり回復基調に入り、令和7年度も維持している。

《令和7年度の主な取組状況》

- 小笠原村観光局ホームページの教育旅行サイトの充実を図り、誘致活動を実施【村】

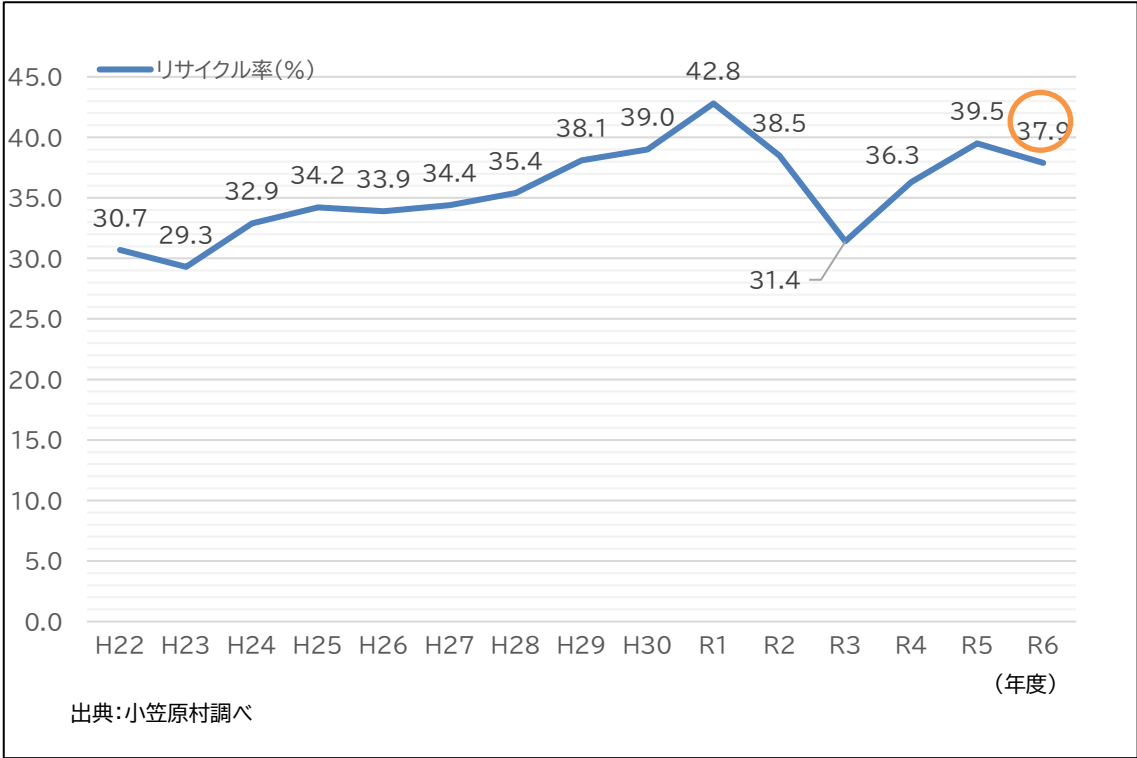
2. 各目標の達成状況

※各目標に対する実績について、直近の年度(令和7年度)の数値でないものは、()で表記する。

(6) リサイクル率

令和6年度実績	目標 (令和10年度)	参考値(令和3年度実績)
37.9%(速報値)	50%	31.4%

【小笠原村におけるリサイクル率の推移】



【リサイクル率の推移について】

○ 令和2年度以降はコロナ禍の影響により、外出機会減少に伴う家内の片付け等による大型ごみや、飲食物テイクアウトに伴う使い捨て容器等、焼却ごみが増加し、リサイクル率が下がっていたが、コロナ禍の影響が薄まってきた令和4年度以降は回復基調となっている。

《令和7年度の主な取組状況》

- 単純焼却量・埋立量削減のため、リサイクル率の向上に向けた、住民の意識啓発や、ごみの減量化・資源の有効活用を実施【村】
- 焼却炉の年次精密点検・定期補修を実施し、予防保守による延命を実施【村】

「リサイクル率」: 令和7年度にごみ処理基本計画を策定した際に根拠数値を整理した結果、過去のリサイクル率に若干の変動あり。

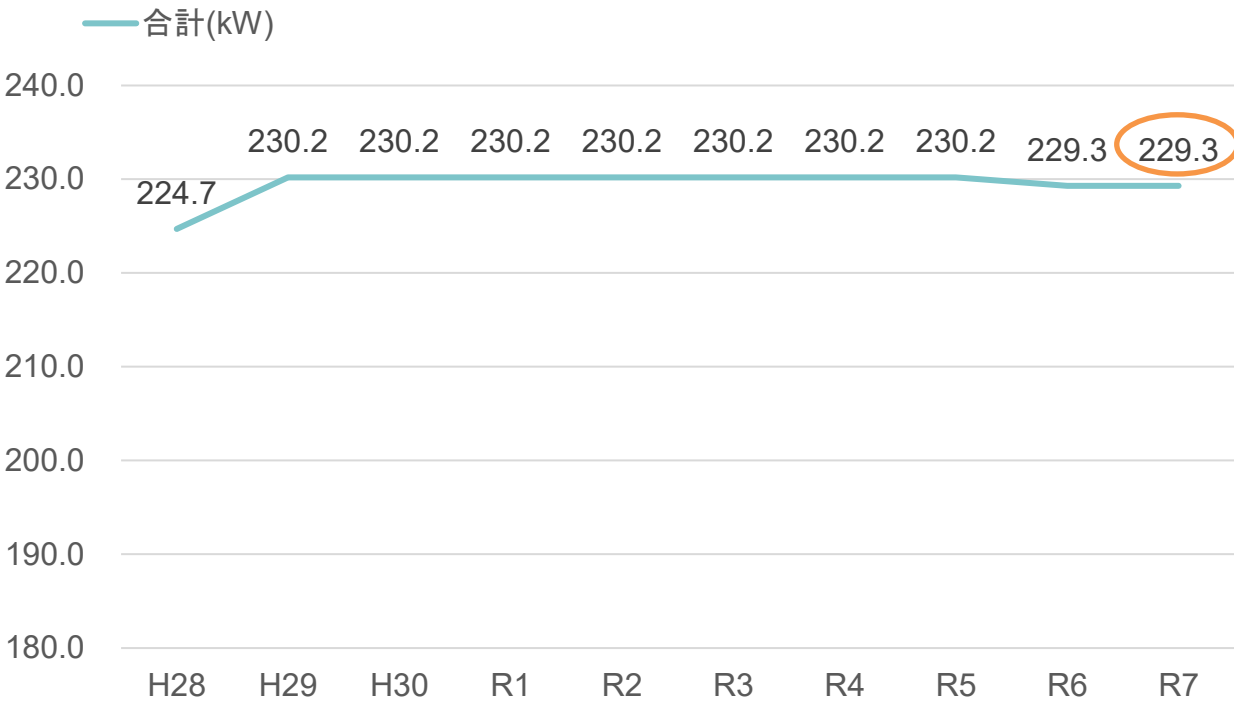
2. 各目標の達成状況

※各目標に対する実績について、直近の年度(令和7年度)の数値でないものは、()で表記する。

(7) 再生可能エネルギー発電容量

令和7年度実績	目標 (令和10年度)	参考値(令和4年度末実績)
229.3kW	325kW	230kW

【小笠原村における再生可能エネルギー発電容量の推移】



【再生可能エネルギー発電容量の推移について】

- 平成28年度に竣工した環境省の小笠原世界遺産センターに太陽光発電設備が設置(発電容量:5.5kW)され、令和6年度の設備更新により小笠原村情報センターの発電量が4.6kWになったことで、小笠原村の再生可能エネルギー発電容量は229.3kWとなった。

《令和7年度の主な取組状況》

- ゼロエミッションアイランドの実現に向けた取組の一環として、東京都、小笠原村及び東京電力パワーグリッド株式会社の三者で、母島において1年間のうちの半年程度、太陽光発電のみで電力供給を行うことを目標とした実証事業(母島再生可能エネルギー100%電力供給実証事業)について、令和7年8月から実証運転を開始【都・村】
- 島しょ地域に位置する町村営公共施設、事業所及び住宅等に対し、太陽光発電設備及び蓄電池の導入補助を継続【都】

【小笠原村内の公共施設における太陽光発電設備設置箇所】

太陽光発電設備設置施設	発電容量(kW)
小笠原村診療所	50.0
地域福祉センター	10.0
小笠原村情報センター	4.6
都立小笠原高校	20.0
奥村交流センター	20.0
母島小中学校	50.0
母島長浜トンネル(独立)	5.0
母島ソーラーポンプ場(独立)	32.0
扇浦新浄水場	22.0
扇浦交流センター	10.2
小笠原世界遺産センター	5.5
合計(kW)	229.3